

第109回医師国家試験対策委員会の活動報告

副委員長 我喜屋 亮 太（5年次）

皆様こんにちは。本原稿を執筆しています11月は沖縄も寒くなり始め、また、6年生は国家試験、5年生は総合試験、4年生はC B Tの勉強に追われている今日この頃です。

今回は国家試験対策委員長の知念に代わりまして、副委員長の我喜屋が国対活動の報告をさせていただきます。

さて、来る2月の国家試験に向け、国家試験対策委員は少しずつ活動を開始し始めました。何度かの幹部会などにて、今回の国対活動について話し合わせ、おおまかな方向性と準備内容とが決まっております。そもそも国対活動は、はるか上の大先輩方から脈々と引き継がれており、現在でもその重要性は変わっておりません。日ごろの模試の開催やビデオ教材の配布、受験生が泊まる宿の手配、国試当日の送り出しやあらゆるサポートなど、活動内容は多義にわたります。国試当日の作業に注目が集まりがちですが、日々の作業、特にビデオ講座の教材配布や模試の運営に協力してくれている同級生には頭が上がりません。いつもありがとうございます！

他大学でも国対活動が行われている中で、他大学にはない琉球大学国対活動の特徴といえば、解答速報ではないでしょうか。まとめますと、国試当日に問題をお貸しして頂き、先輩方が気になる答えの出にくい問題（いわゆる割れ問）に係りのメンバーが解き、調べ、先輩方に還元いたします。また、その過程で割れ問ではない他の問題にも解答を出したり、出題された問題から、公表されているガイドラインをもとに翌日以降の出題傾向を分析したりもしています。様々な方々から、ここまでする必要はあるのかとのご指摘も頂きますが、年々手法を工夫、改善している成果もあり、現在では合理化を進めることで負担を軽減し、また解答の的中率を非常に高く維持しております。過去の受験生の先輩方からの満足度もとても高いとの事です。

次に去る10月に宮崎県で行われた九州ブロック会についての報告を致します。ブロック会とは各大学の国対委員長・副委員長が集まり、各大

学の取り組みや成果などを情報交換しております。大学により取り組み方や力の入れ方は様々でどの情報も参考になります。特に、前年度の国家試験合格率が良かった大学には注目が集まります。（琉球大学にも注目が集まりました！）他大学ではC B Tの合格ラインを上げたり、卒業試験の方針の変更や、成績下位者への学校側からの指導などを行っているそうで、どの大学の委員も内情を包み隠さず公開していたのが印象的であり、学生間の情報交換の良さを認識しました。懇親会では各大学の委員やMECの孝志朗先生、業者の担当者の方々など様々な方とお話ができて非常に有意義な時間となりました。

また、予備校講師の先生方からは、地域枠導入を始めとした国家試験受験者数の上昇と厚生労働省の医師の定員をあまり増やしたくないとの実情から来る、国家試験合格率の全体平均の低下が起こる可能性があり、年々合格率が減少することとも視野に入れながら勉強しなければならない時代になる可能性があるとのことでした。また、アドバンスドオスキーの導入大学の増加により、卒業に向けての新たな関門としてのオスキーの位置づけ、特に医療面接による臨床推論の力が試されるであろうとのことでした。実際、琉球大学では今年の6年生に試験導入され、我々学年から、卒業判定としての本格導入がなされるようです。

以上のように様々な変化も多いですが、みんなで仲良く、励ましあって勉強すれば乗り越えられるのではないかと信じています。まずは日々の実習、総合試験、先輩方の国試のサポートなど一つ一つ頑張っていきたいと思います。

